

平成16年12月2日

平成17年3月期 中間決算説明会資料

曾田香料株式会社

代表取締役社長 光安哲夫

目次

- .会社概要
- .平成17年3月期 中間決算概要 (連結)
- .平成17年3月期 中間決算概要 (単体)
- .平成17年3月期 業績予想
- .中期経営課題 (平成16～18年度)の進捗状況

.会社概要

会社概要

1) 経営理念

「香料を中心とする各種製品の開発と生産を進め、
これを顧客に販売することを通じて、社会に奉仕する」

2) 事業内容

フレグランス（香粧品香料）

石鹸、シャンプー、芳香剤、入浴剤等に使用

フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用

合成香料・ケミカル

- ・ 大環状ムスク、ラクトン類等のフレグランス・フレーバー素材
- ・ ガス着臭剤(都市ガス・LPG用)
- ・ 医薬・農薬中間体、電子材料等

3)従業員数 (H16年9月末現在 / 有価証券報告書基準)

連結 353名
単独 298名

4)事業所

本社 (東京都中央区) 大阪支店、札幌営業所
野田工場 (千葉県野田市) 郡山工場 (福島県郡山市)

5)関係会社

連結子会社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非連結関連会社	曾田香料(昆山)有限公司

.平成 17年 3月期 中間決算概要 (連結)

連結業績の概要（経営成績）

億円

科目	前中間期		当中間期		増減	
	H15/09	構成比 (%)	H16/09	構成比 (%)	金額	%
売上高	93.0	100.0	94.5	100.0	+ 1.5	+1.5%
売上原価	68.6	73.7	67.8	71.8	0.8	1.1%
売上総利益	24.5	26.3	26.7	28.2	+ 2.2	+9.0%
販管費	19.5	21.0	19.3	20.5	0.2	1.0%
営業利益	4.9	5.3	7.3	7.8	+ 2.4	+48.6%
営業外収支	0.2	0.2	0.1	0.1	+ 0.3	-
経常利益	4.7	5.1	7.4	7.8	+ 2.7	+57.5%
特別損益	0.4	0.5	0.0	0.1	+ 0.5	-
税引前中間(当期)純利益	4.3	4.6	7.4	7.8	+ 3.1	+72.7%
法人税、住民税等	1.4	1.5	3.1	3.2	+ 1.6	+113.0%
法人税等調整額	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	-
中間(当期)純利益	2.8	3.0	4.7	5.0	+ 1.9	+67.4%

部門別概況

フレグランス

国内向け化粧品用香料、アジア向け輸出用調合香料好調により自社製品増収。

一方、仕入れ商品は減収し、全体では減収。

売上高 2.6% (製品 + 3% 、商品 16%)

フレーバー

主力製品の食品用香料が販売努力と猛暑の影響で、飲料用を中心に増収。たばこ用香料も輸出好調で増収。

一方、果汁等の仕入れ商品は減収し、全体では減収。

売上高 2.0% (製品 + 7% 、商品 11%)

部門別概況

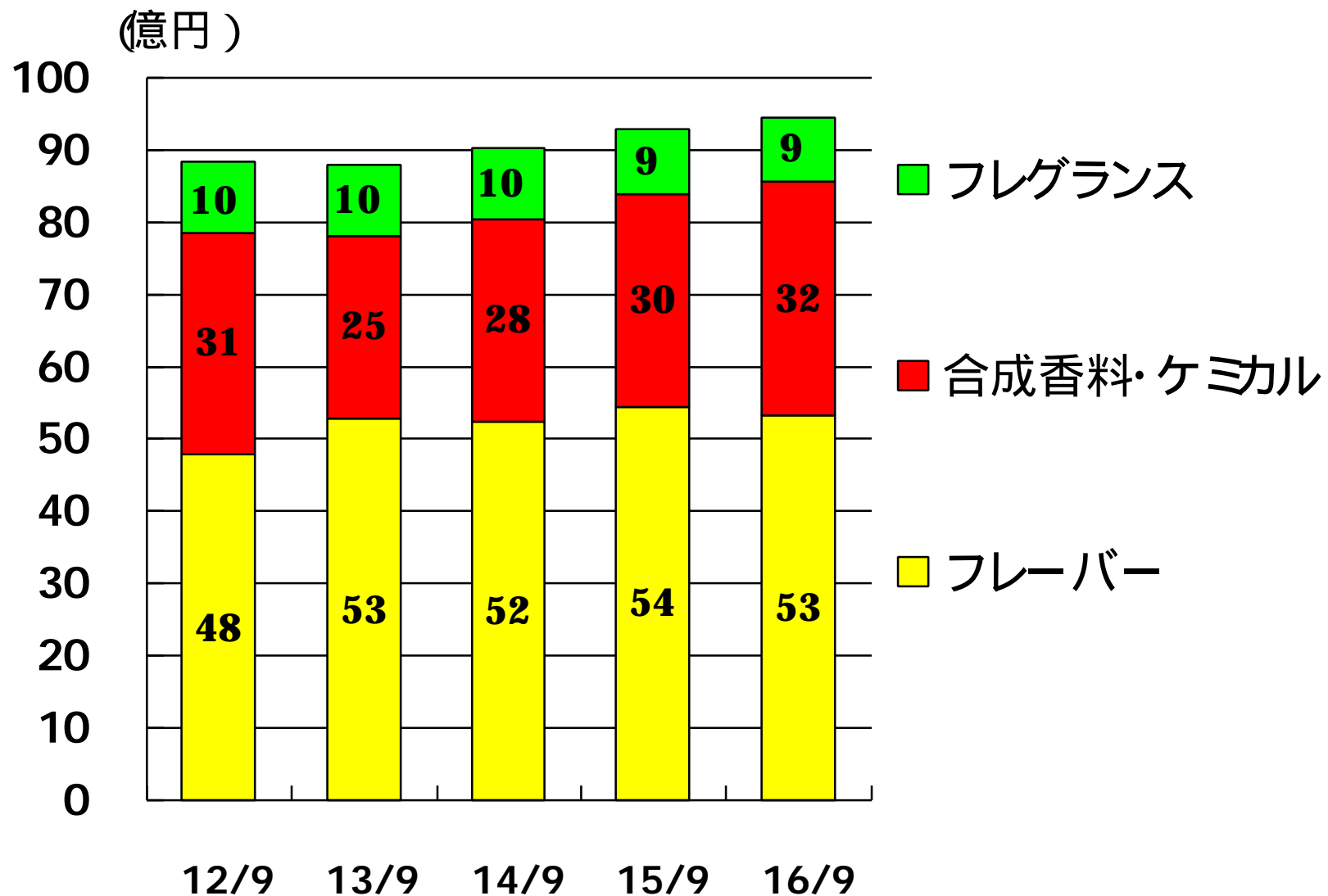
合成香料・ケミカル

合成香料は、ラクトン類およびムスク類(ジャ香臭香料)が順調に拡大。

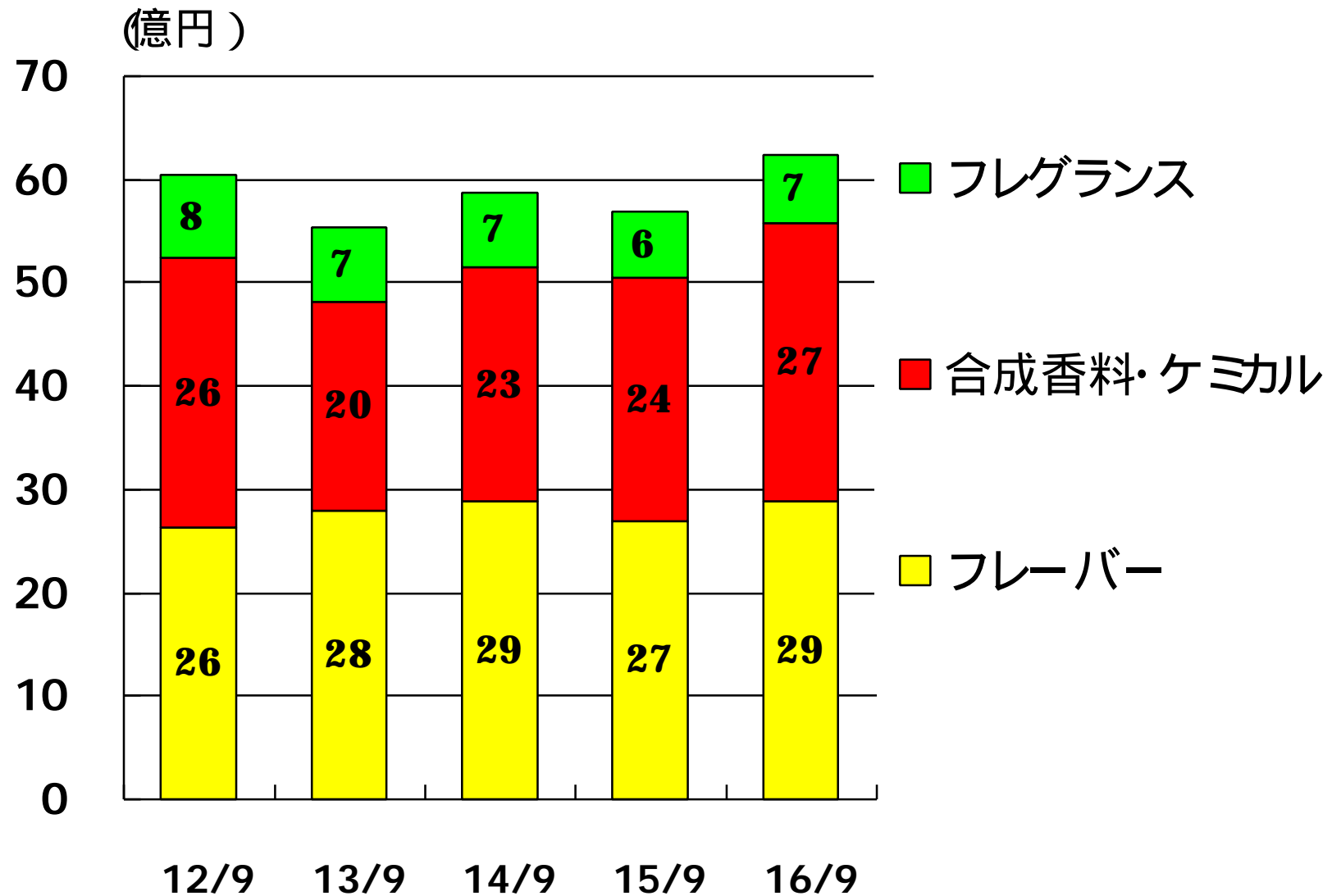
ケミカルは、医農薬中間体はやや伸び悩みましたが、電子材料関連の続伸により、自社製品が大幅増収。一方、仕入れ商品は減少したが、全体では増収。

売上高 + 9.4% (製品 + 14%、商品 10%)

部門別売上高

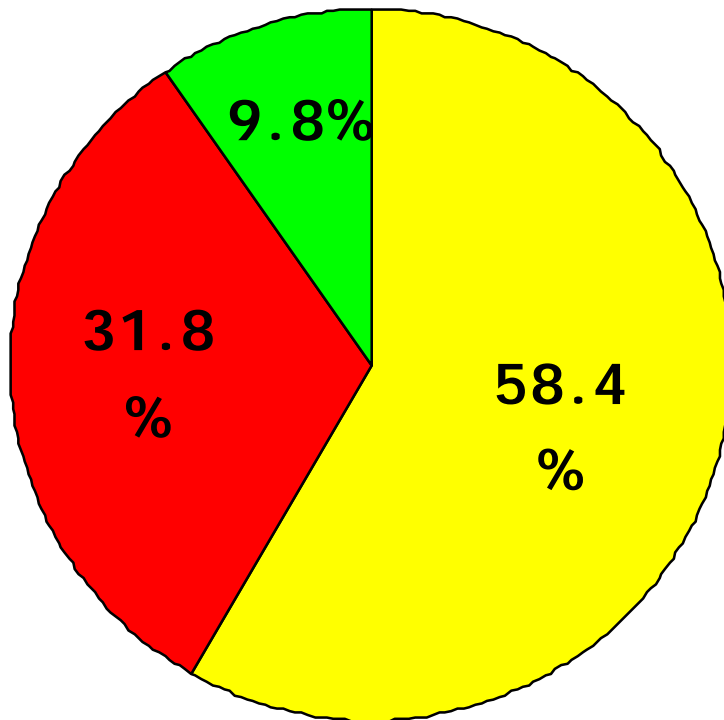


部門別売上高 (製品)

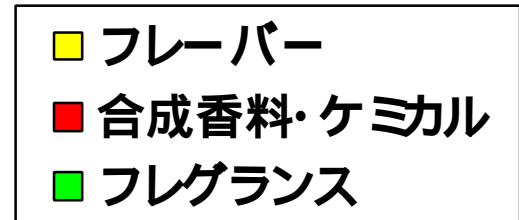
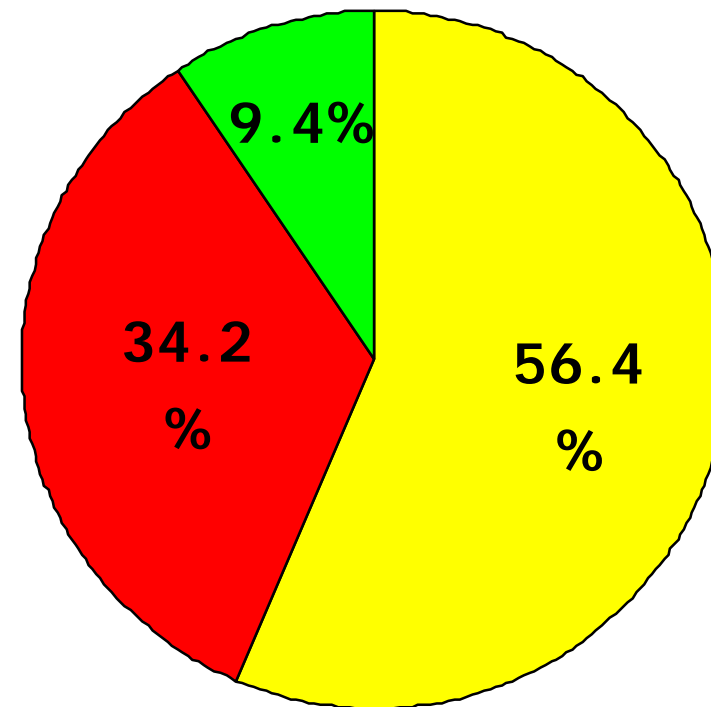


部門別構成比率

H15/9

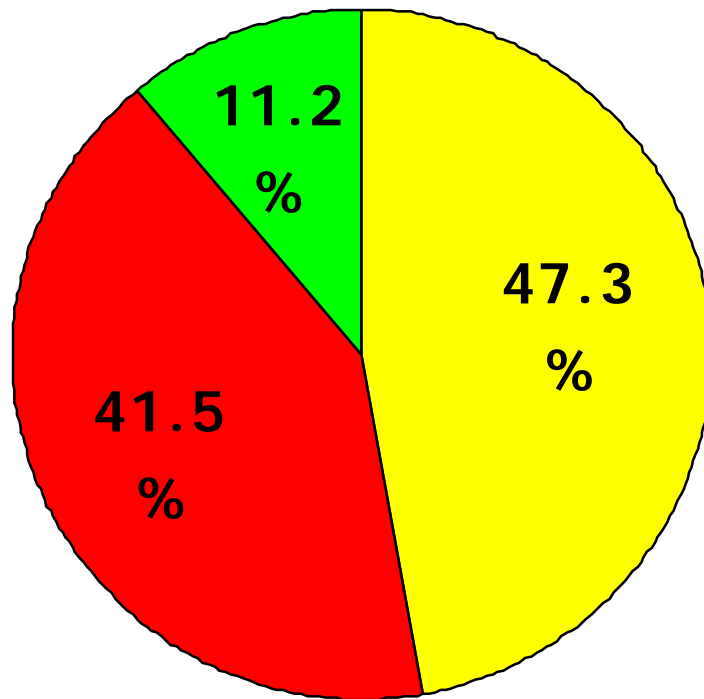


H16/9

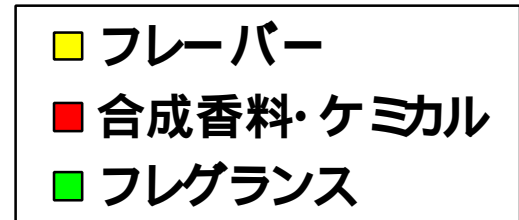
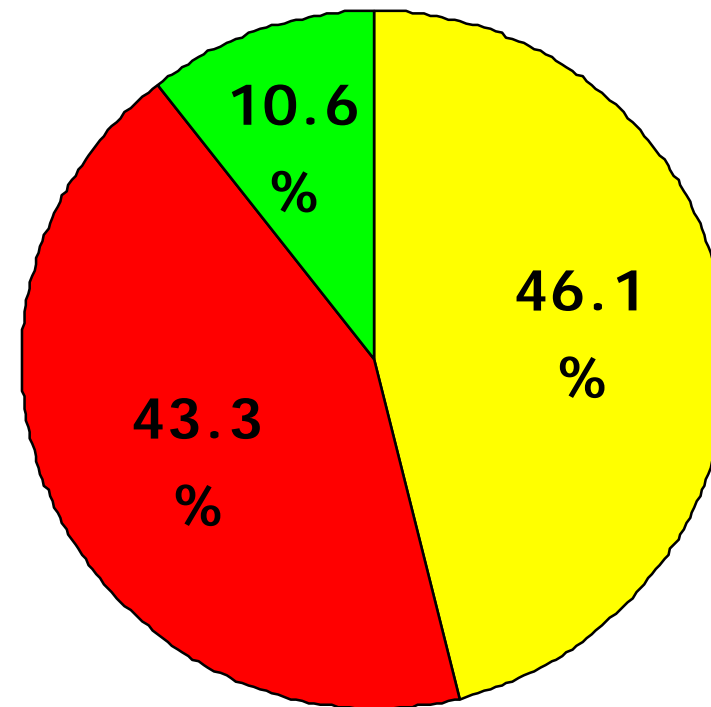


部門別構成比率 (製品)

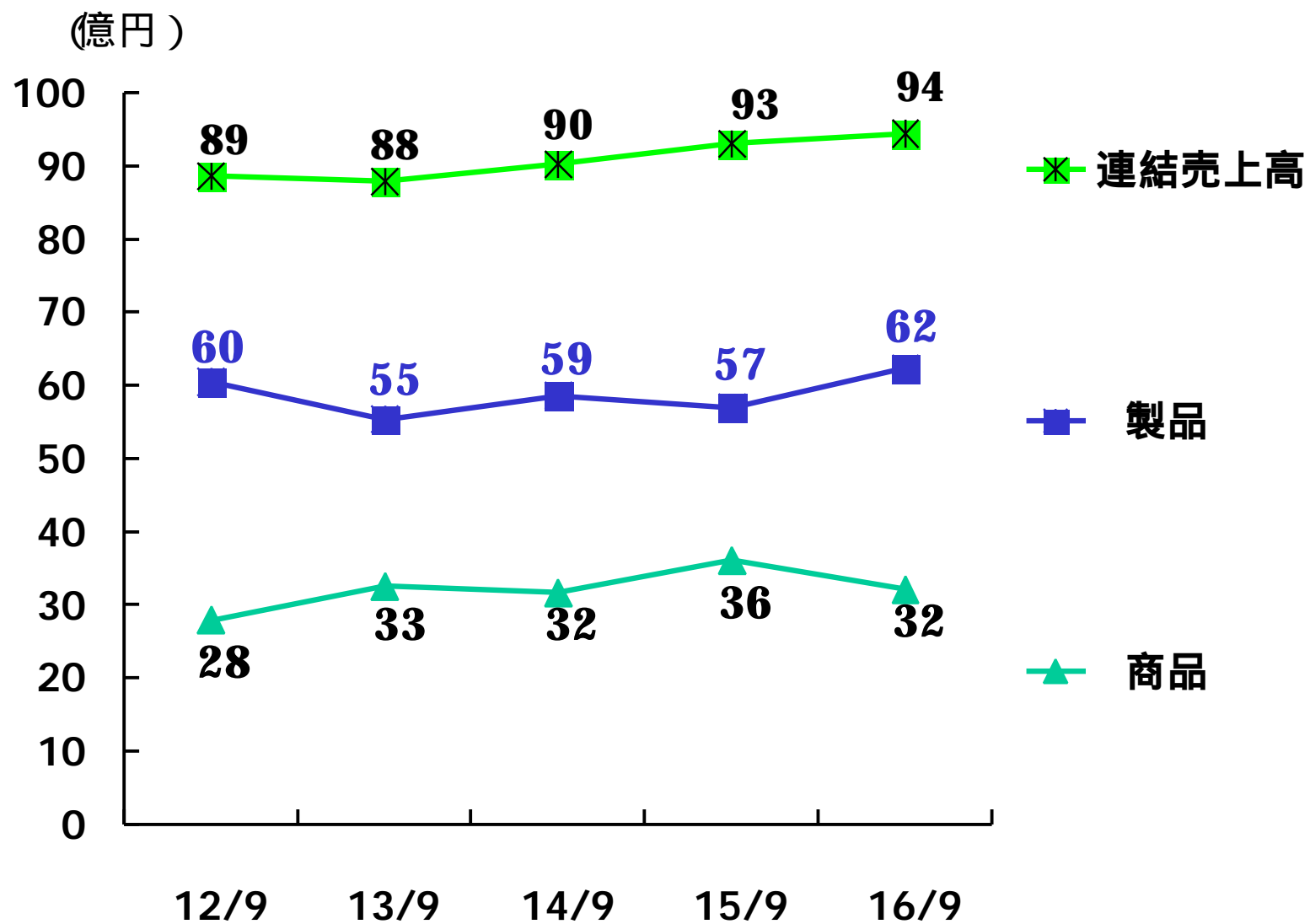
H15/9



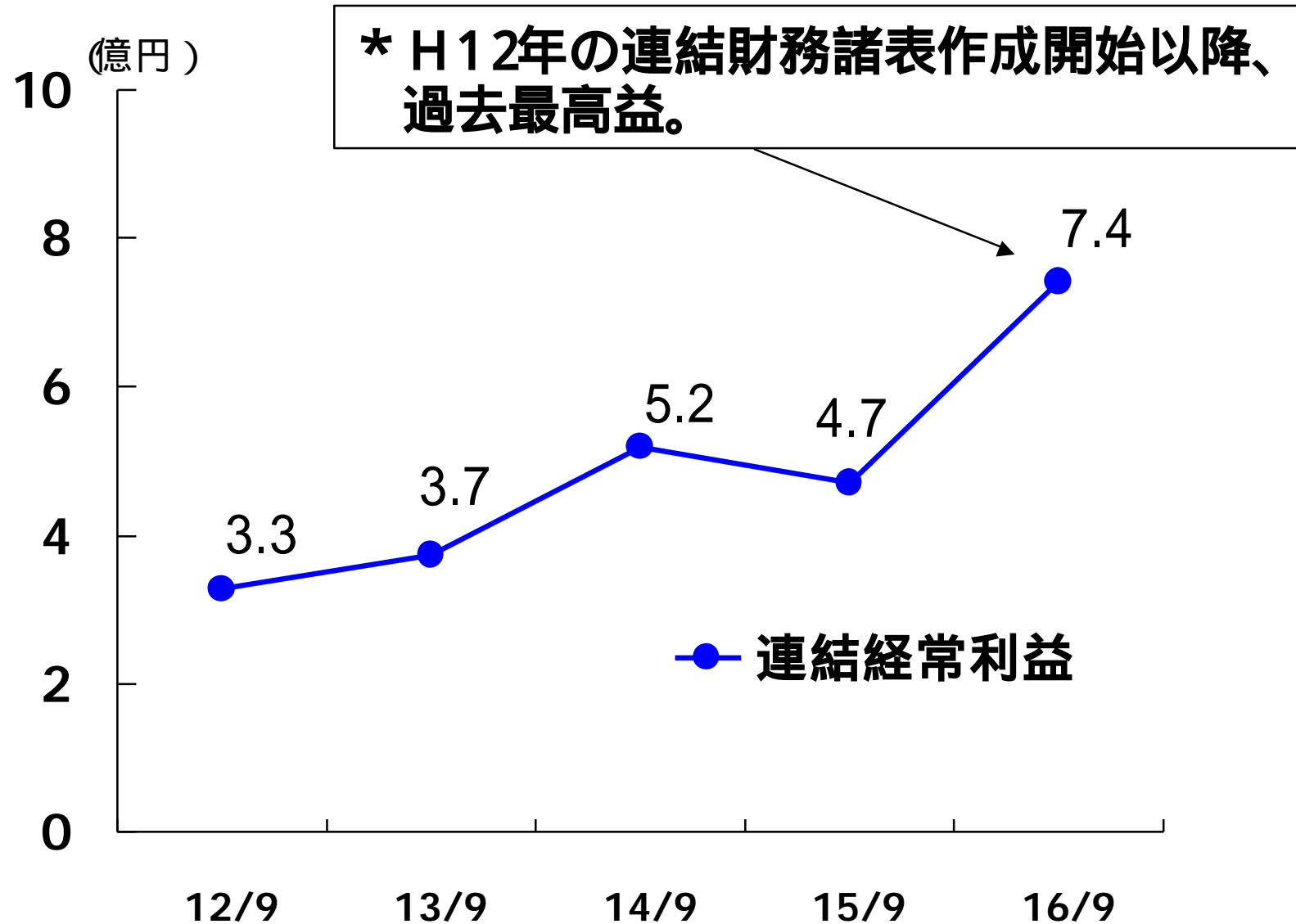
H16/9



売上高推移



経常利益推移



連結業績の概要 (財政状態)

億円

	H15/09	H16/09	増 減	
			金額	%
総資産	161.9	161.9	0.0	+0.0%
株主資本	61.5	68.4	+6.9	+11.2%
1株当たり 株主資本	614.79円	683.74円	+68.95円	+11.2%

	H15/09	H16/09	増 減	
			金額・ポイント	%
株主資本比率	38.0%	42.2%	+4.2	-
1株当たり 中間純利益	28.13円	47.09円	+18.96円	+67.4%

資産

億円

	H15/09	H16/09	増 減	特記事項
総資産	161.9	161.9	+ 0.0	
流動資産	96.2	97.0	+ 0.8	手元資金の増加等
有形固定資産	46.2	44.7	1.5	設備投資の効率化等
無形固定資産	2.5	2.1	0.4	
投資その他	17.0	18.1	+ 1.2	上場株式の評価差額増加等

負債・資本

億円

	H15/09	H16/09	増 減	特記事項
負債合計	100.4	93.5	6.9	
流動負債	59.3	54.2	5.1	短期借入金の返済等
固定負債	41.1	39.3	1.8	
少数株主持分	-	-	-	
資本合計	61.5	68.4	+ 6.9	利益剰余金の増加、 有価証券評価差額金の増加等
有利子負債残高	44.8	35.0	9.8	収益伸長、効率的設備投資、 棚卸資産の削減等

連結業績の概要 (キャッシュ・フローの状況・トレンド)

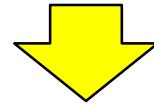
億円

	H15/09	H16/09	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5.0	8.3	+ 3.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	5.7	4.3	+ 1.4
財務活動によるキャッシュ・フロー	1.3	4.5	5.8
現金及び現金同等物の増加額	0.6	0.5	1.1
現金及び現金同等物中間期末残高	13.1	14.8	+ 1.7

	H15/03		H16/03		H17/03
	中間	期末	中間	期末	中間
自己資本比率 (%)	35.2%	36.3%	38.0%	39.5%	42.2%
時価ベースの自己資本比率 (%)	27.5%	27.4%	31.3%	31.2%	37.1%
債務償還年数 (年)	-	7.0	4.5	2.5	2.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	-	15.6	27.6	45.1	52.9

経常利益変動要因分析

(H15年9月期 4.7億円 H16年9月期 7.4億円)



2.7億円増

増益要因

1) 収益構造の改善による増益

- ・ 自社製品増収による収益改善

2) トータルコスト競争力の更なる強化

- ・ 購買VA、プロセス改善、要員効率化等

.平成 17年 3月期 中間決算概要 (単体)

業績の概要 (単体)

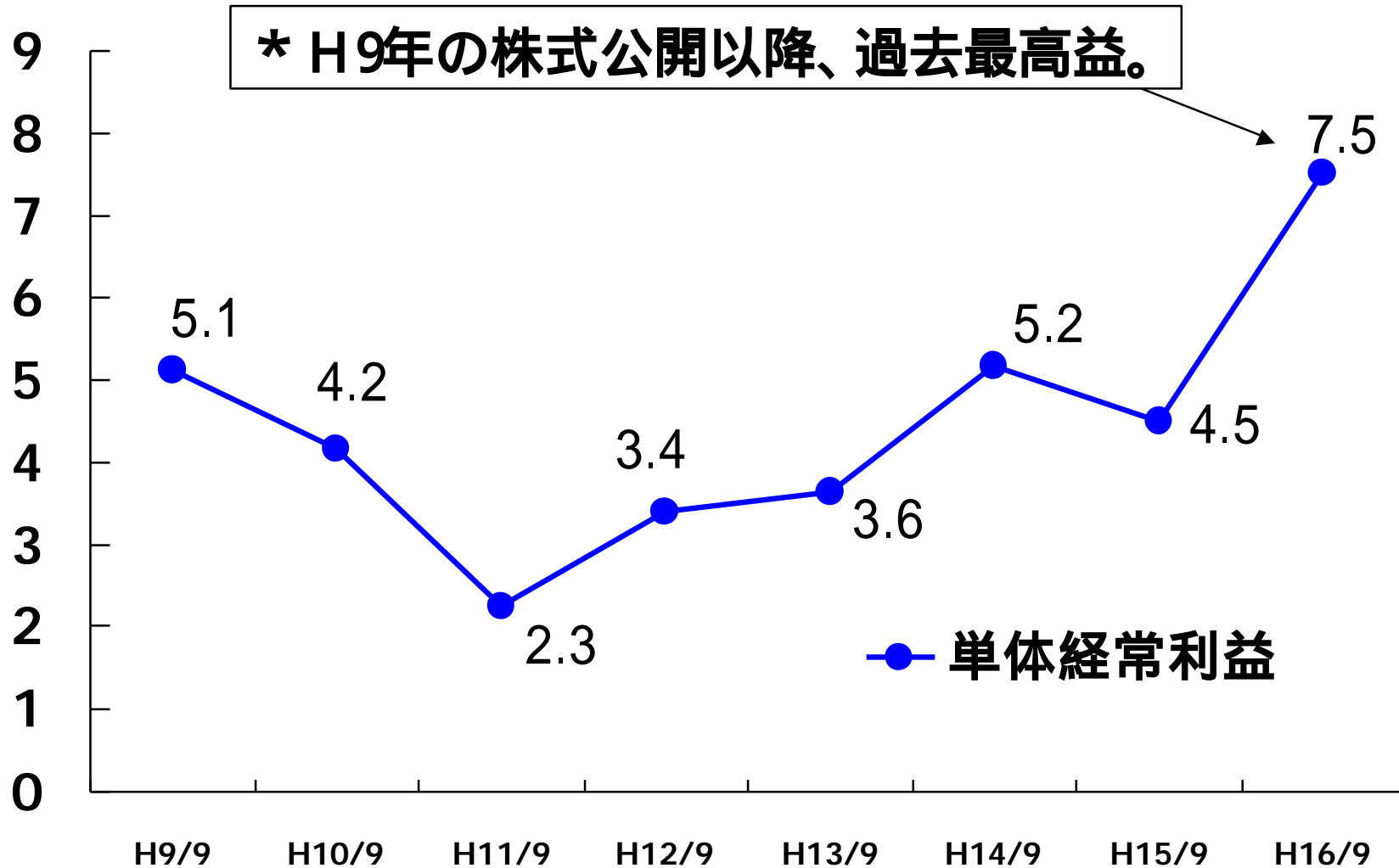
億円

単 体	前中間期 H15/09	当中間期 H16/09	増 減		前期 H16/03
			金額	%	
売上高	91.6	93.5	+1.9	+2.1%	178.9
営業利益	4.5	7.3	+2.8	+61.9%	9.1
経常利益	4.5	7.5	+3.0	+66.8%	8.9
中間(当期)純利益	2.9	4.9	+2.0	+69.5%	5.4
総資産	156.3	156.8	+0.5	+0.3%	156.4
株主資本	57.6	64.4	+6.9	+11.9%	59.9

単体：中間 1 株当たり中間配当金 5 円
 (利益配当金の 5 円と合わせ、年間 1 株当たり配当金 10 円を予定)

経常利益推移 (単体)

(億円)



.平成 17年 3月期 業績予想

平成17年3月期 市場環境

フレグランス	引き続き横這いもしくは微減傾向 依然厳しい環境
フレーバー	猛暑効果の追い風もあったが、横這い傾向 ユーザーの価格引下げ要請も懸念材料
合成香料	世界市場は微増傾向、中国市場向けは拡大
ケミカル	農薬原料市場は引き続き低迷 電子情報材料市場にやや減速感

平成17年3月期 業績予想

億円

	H16/03 (実績)	H17/03 (当初予想)	H17/03 (修正予想)	増減率
連結 売上高	181.3	183.0	185.4	2.2%
經常利益	9.7	10.5	12.6	30.5%
当期純利益	5.6	6.5	8.0	41.7%
単体 売上高	178.9	181.0	183.5	2.6%
經常利益	8.9	10.2	12.5	40.7%
当期純利益	5.4	6.2	7.8	45.2%

連結經常利益の前期比増益要因 (+ 2.9億円)

売上高増による増益

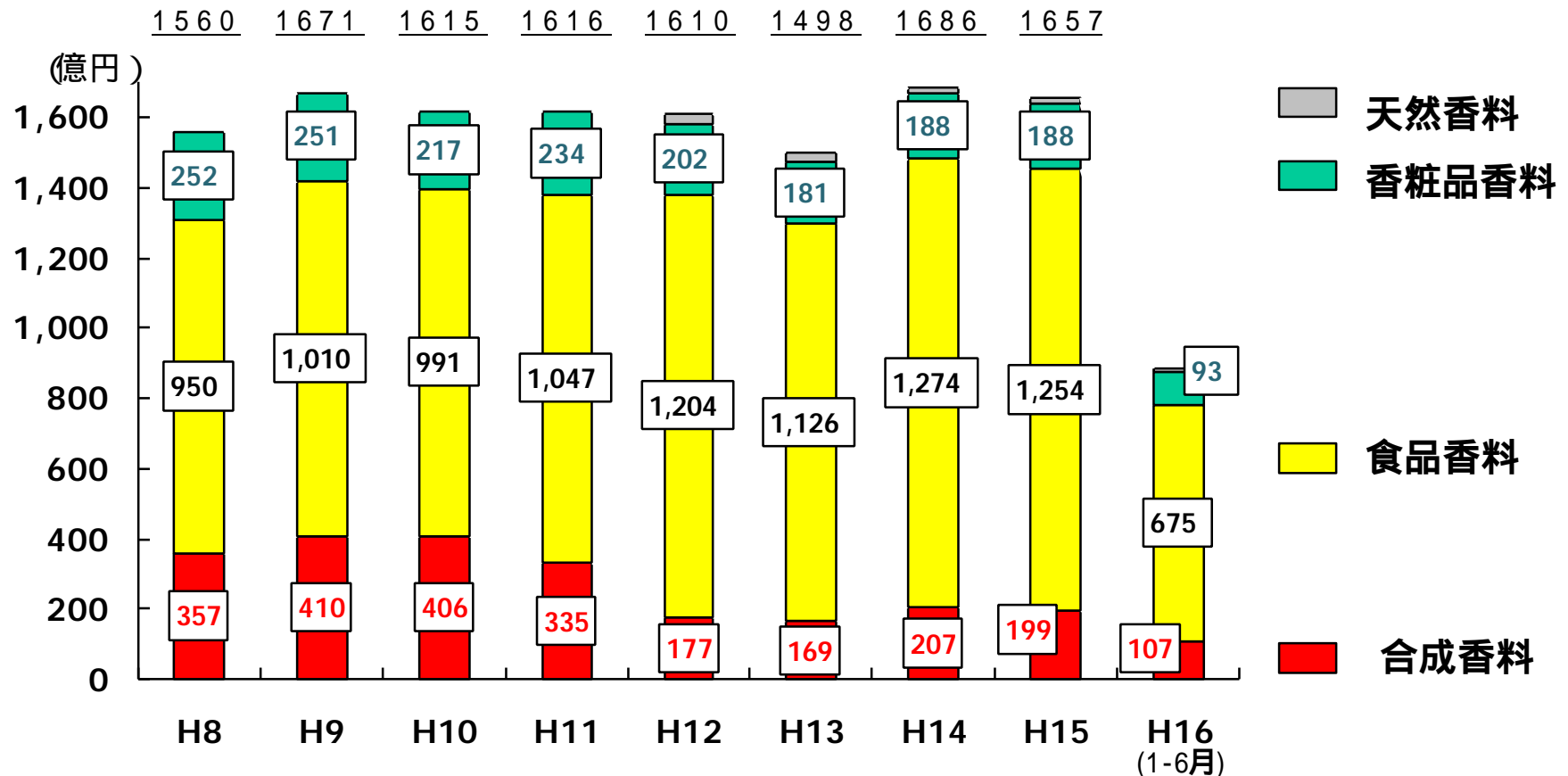
トータルコスト競争力強化

・中期経営課題（平成16～18年度） の進捗状況

事業環境

1) 香料市場推移

(日本香料工業会 製造統計より)



* 最近5年間の伸長率：食品香料 年率 4.6%

* H12年以降の合成香料については、非香料のケミカル製品を除外

* H16(1-6月) / 前年同期比 化粧品香料-3.2% 食品香料+1.7% 合成香料+7.1%

2)市場動向

- ・少子高齢化、食の安全・安心および健康志向の高まり、天然物への回帰
- ・多様化する消費者ニーズへの対応

3)業界動向

- ・寡占化・グローバル化の進行
- ・フレーバーは価格競争が厳しく伸びは鈍化、技術力・提案力などレベルの高い競争へ
- ・新素材開発、新たな機能を付加したフレーバーに注力

中期目標

ユニークで存在感のある

香料会社の確立

- 株主の期待に応えられる香料会社
- 当社独自の技術を確立し、その技術を活かした、新製品の上市

数値目標 (平成18年度)

・**経常利益 12億円以上**

↔ **ROE 10% 以上**

↔ **ROA 8% 以上 (営業利益基準)**

・**有利子負債残高 35億円以内**

↔ **D/E レシオ 0.5倍以内**

数値目標の進捗状況

	H13/09	H14/09	H15/09	H16/09	中経目標
ROE	7.2%	9.7%	9.3%	14.2%	10% 以上
ROA	4.6%	6.8%	6.1%	9.0%	8% 以上
有利子負債	39 億円	42 億円	45 億円	35 億円	35 億円 以下
D/E レシオ	0.71 倍	0.73 倍	0.73 倍	0.51 倍	0.5 倍 以内

< 参 考 >

株主資本比率	34.1%	35.2%	38.0%	42.2%
総資本経常利率	4.5%	6.3%	5.8%	9.1%
売上高経常利率	4.2%	5.8%	5.1%	7.8%
期中株価高値	460 円	490 円	570 円	646 円
同 安値	380 円	370 円	430 円	509 円

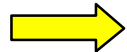
- * ROE 株主資本当期利益率 ROA 総資本営業利益率
- * 利益率は、中間決算では各利益を2倍(年換算)で計算。
資本利益率の各資本は期首・期末の平均
- * 中経目標は、H18年度末 本決算での完全達成を目指す。

課題 施策

1)事業構造の改革

収益構造の改善

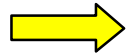
フレーバーを中心とした自社製品の売上高構成比率の
向上による収益改善



当中間期自社製品比率 66% (前年同期比 +4.8 ポイント)
* 中経目標値を上回る進捗状況

競争力のある技術の確立

- A .消費者起点のフレーバー用天然素材・素材製剤化技術の確立、事業化
- B .機能性素材 (DHA、カテキン、ビタミン等)に対応したフレグランス、フレーバーの技術確立



全社プロジェクトを立ち上げ、研究開発中。

高付加価値・高機能天然エキスの開発

高度な調合加工技術の確立 (より高度な粉末・乳化技術等の素材製剤化技術の確立)

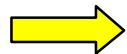
2)時代に適合した事業形態への変革

フレーバー既存事業の拡大

- A .乳酵素フレーバー、調味系フレーバーの新規拡販
- B .全社プロジェクトを設置、大型製品の上市。

中国事業の拡大

今後のグローバル化、事業拡大発展のため、フレーバー事業を最優先に中国事業（現地生産および輸出対応含む）を拡大。

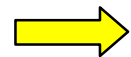


H16年度上期中国事業売上高 4億円

* 中経目標 :H18年度中国事業売上高 12億円

3)人材の活性化

実力主義・成果主義に基づく〈新人事制度の導入による人材の活性化



管理職には平成16年4月より実施済み。

4)強固な事業体質の確立 (高コスト体質の改善)

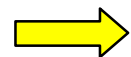
トータルコスト競争力の更なる強化

比例費削減 購買VA、プロセス改善によるコストダウン

要員の活性化、効率化

低採算品目の改善、生産品目の見直し

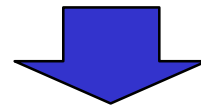
資本効率化 (在庫削減、設備投資の重点化、有利子負債削減)



* 中経目標値を上回る進捗状況

これら課題 施策の完全なる実施により

**財務体質の強化と
安定した収益基盤を確立**



**ユニークで存在感のある
香料会社の確立**

本資料中の平成 17年 3月期業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社
人事総務部

TEL : 03 - 5645 - 7340

FAX : 03 - 3668 - 6289